

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 26 日現在

機関番号：24302

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2011～2015

課題番号：23242050

研究課題名(和文) 古代寺院の儀礼・経営に関する分野横断的比較研究

研究課題名(英文) Multidisciplinary studies on ceremony and management of ancient temples

研究代表者

菱田 哲郎 (HISHIDA, Tetsuo)

京都府立大学・文学部・教授

研究者番号：20183577

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 24,000,000円

研究成果の概要(和文)：日本の古代寺院を中心に、寺院の機能、とりわけ儀礼と経営施設に注目して、その展開過程を明らかにした。日本列島内では、近畿地方の寺院跡をとりあげ、実地に即してそれぞれの調査成果の読み解きをおこない、儀礼や経営に関して考古学、文献史学双方からの再構成をおこなった。また、東北地方、中部地方、中国地方などの寺院との比較をおこなった。朝鮮半島についても現地を訪れ、とくに大規模な発掘がおこなわれている寺院から、寺院の経営に関する施設の実態を検討した。これらの成果を受けて、日韓の国際シンポジウムを開催し、寺院のソフトウェア的側面の比較についてその可能性を探った。この成果を報告書にとりまとめ、公表をおこなった。

研究成果の概要(英文)：Our research focus sort to explore the development of functions within the ancient Buddhist temple sites of Japan, especially that of their ceremonial and management facilities. Within the Japanese archipelago, we investigated the excavation results of more than twenty temple sites in the Kinki region. With a combination of archaeological and historical documentary research, each site was studied to reconstruct the ceremonial and management activities of the temples. We then further compared the excavation results of temple sites from the regions of Tohoku, Chubu and Chugoku. After this, we conducted a similar survey of Korean temple sites, especially those where large-scale excavations had taken place. With our research outcomes, we held an international symposium comparing the management of Buddhist temples between Japan and Korea. This concluded with a discussion on the importance of the 'software aspects' or ephemeral practices of functions taking within Buddhist temple complexes.

研究分野：考古学

キーワード：仏教寺院 寺院史 仏教儀礼 経営施設 日韓比較

1. 研究開始当初の背景

古代寺院は古くから研究がおこなわれ、考古学の一分野として確立している。その寺院に対する考古学的研究は、中央の大寺院を除くと、伽藍配置や堂塔、礎石や瓦などが資料とされ、ハードウェアに偏った感があった。そのため、寺院に在住した僧侶やその活動については、ほとんど取りあげられてはこなかった。しかし、近年、寺院の法会や経営に関する調査成果が大寺院以外でも得られるようになっており、過去の調査例についても、新たな視点から見直しをおこない、発掘成果を読み解いて、古代寺院のソフトウェア的側面を検討することが急務であった。

寺院の宗教活動や経営組織の研究は、大寺院に関する史料に基づき文献史学が取り組んできた課題であるが、史料の残りにくい地方寺院の実態については、ほとんど手がかりがない。しかし、畿内地域であれば、さまざまな史料を博捜することを通して、情報を拾い出すことが可能である。寺院からの出土文字資料も増えてきており、従来は「雑舎」として片づけられたものについて、具体的な機能がわかる場合もある。また、宝幢遺構など、伽藍の荘厳の状況が明らかになる例もあり、法会などについて情報を引き出すことが可能になる。このように、これまでの調査成果を新たな視点で実地に即して読み解くことが、寺院の機能の解明にとって求められていた。各地の寺院について地域ごとに研究が進められているが、機能に焦点を当てた比較研究はほとんどないため、寺院の儀礼や経営のあり方がわかる事例を抽出しつつ、地域を越えた比較をおこなうことが必要と考えた。

2. 研究の目的

以下の3点を目的とした。

(1) 畿内寺院の総合的検討 発掘調査により重要な知見がえられている畿内および周辺地域の寺院を対象に選定し、その寺院についての検討を集中的に進める。発掘調査が実施された寺院ごとに、これまでの考古学的所見を総合するとともに、それらに照合しうる文献史料を抽出し、伽藍中枢部の所見から儀礼面の検討、伽藍周辺部の所見から経営施設の検討をそれぞれおこなう。さらに寺院の歴史の変遷を検討することから、その存続形態を明らかにすることを目的とした。

(2) 地域間の比較研究 地域における違いを明らかにするため、畿内地域と他地域との比較検討をおこなう。畿内以外で寺院が密に分布する地域として、吉備地域や北東北地方、そして、調査事例の多い中部地域も比較研究の対象に含める。機能や経営において畿内諸寺院との共通性や相異点を、ソフト面から解明し、畿内寺院で明らかになった特徴がどの程度、敷衍できるかを目的とした。

(3) 日韓の比較研究 日本の古代寺院を考える上で、百濟、新羅など朝鮮半島の寺院との関係を抜きに考えることはできない。古代

寺院の儀礼や経営についても、日韓比較が必要になる。そこで、日本側の資料収集と同じ観点で朝鮮半島南部の古代寺院についてのデータ収集をおこない、調査成果の読み解きをおこなう。そして、実際に、韓国側の調査協力者とともに現地を訪れ、実地の検討をおこなう。その結果として、日韓の古代寺院の共通性や相違点について、ハードウェアに加えて、ソフトウェアの面で比較検討をおこない、その成果をシンポジウムにより検証・公開することとした。

(4) 寺院関連データの収集 分野を横断する検討に備えて、考古学では古代寺院の発掘成果について資料収集を進め、宝幢の遺構を含め伽藍中心部の儀礼に関する遺構や遺物、僧房、食堂、伽藍周辺部などの寺院経営に関する遺構や遺物についてのデータを集積し、その分析も同時におこなうことを目的とした。古代史では寺院の法会や三綱、大衆院などの寺務機能に関する文献を集積し、かつ奈良時代から平安時代の仏教政策に関する史料を蒐集し、デジタルデータ化をおこなう。寺院出土木簡・墨書土器等については、畿内の寺院に限らず、平安時代中期までを目途に史料集積をはかる。朝鮮半島の古代寺院についても、寺院の遺構、出土文字史料についてデータ集積を進めていく。

3. 研究の方法

(1) 畿内寺院の総合的検討

集中的な検討をおこなう古代寺院の選定をまずおこない、考古学、文献史学双方からの検討をおこなった。具体的には、平成23年度には大阪府寝屋川市・高宮廃寺、平成24年度には大阪府大阪市・安曇寺、法円坂廃寺、兵庫県芦屋市・芦屋廃寺、大阪府柏原市・大里寺跡、山下寺跡、智識寺跡、家原寺跡、鳥坂寺跡、大阪府堺市・黒山廃寺、丹比廃寺、京都府長岡京市・鞆岡廃寺、乙訓寺、平成25年度には、京都府京都市榎原廃寺、向日市方菩提院廃寺、大阪府富田林市新堂廃寺、奈良県明日香村檜隈寺、立部寺、平成26年度には京都府木津川市燈籠寺廃寺、神雄寺跡、滋賀県大津市真野廃寺、衣川廃寺、平成27年度には奈良県西安寺跡、片岡王寺跡、尼寺廃寺跡、京都府京都市・法金剛院跡、四円寺跡、仁和寺、大阪府貝塚市・秦廃寺、泉佐野市禅興寺廃寺、泉南市・海会寺跡について、実地での検討を古代寺院史研究会として実施した。それぞれの研究会において、寺院の調査成果についての報告と文献からの研究報告を準備し、総合的に寺院を理解できるように心がけた。

(2) 古代寺院の儀礼・経営に関する地域間比較

上述の手続きによって集約された畿内およびその周辺の寺院についての情報を相対化するため、他地域との比較をおこなった。平成24年度には和歌山県内の西国分廃寺、最上廃寺、北山廃寺、山口廃寺、上野廃寺を

巡見し、紀伊の寺院についての考古学成果と文献からの検討を研究科として実施した。平成 25 年度には福井県の若狭神宮寺、若狭国分寺、太興寺廃寺、興道寺廃寺について同様の検討をおこなった。平成 26 年度には、東北地方の古代寺院を巡見し、あわせて平安期の仏像も含めて、広く東北地方における仏教の浸透について検討した。この年度には尾張地域の古代寺院、尾張国分寺と東畑廃寺についても研究会を実施した。平成 27 年度には稠密に古代寺院が分布する飛騨地域を取り上げ、飛騨匠との関係も視野に入れて検討をおこなった。

(3) 古代寺院の儀礼・経営に関する日韓比較

日韓の寺院を比較するため、平成 24 年度には慶州、江陵、原州、扶余、益州の古代寺院を巡見した。翌平成 25 年度には、慶州のほか全羅南道の寺院を巡見、平成 26 年度にも大規模な調査をおこなっている寺院を中心に韓国内の寺院巡見をおこなった。これらの知見から寺院機能に関する情報を得ることができ、相互に比較をおこなう前提が得られた。

(4) 古代寺院関連データの収集

古代寺院に関する史料博捜を進め、寺院の調査情報の収集とともに、文献記録に表れる仏教寺院関係の記録を収集した。とりわけ、資財帳については積極的に収集し、その成果を「日本古代寺院資財帳集成」として報告書にまとめることができた。

(5) 研究成果の総合と公開

研究成果の総合化と公開についても初年度から積極的に取り組んだ。平成 24 年度には韓国の研究者も招いて京都府立大学で公開の研究会を実施し、また枚方市が主催する市民向けのシンポジウムに共催の形で参加し、菱田、吉川、上杉が発表をおこなっている。翌平成 25 年度にも京都府立大学で公開研究会をおこなっている。そして、平成 27 年度には 11 月に京都府立大学を会場に日韓国際シンポジウムを開催した。これまでの研究成果を報告するとともに、3 名の韓国側研究者から、本研究のテーマに沿った発表をいただき、討議をおこなった。このシンポジウムの記録は、若干の手直しをおこなったうえで、『古代寺院の儀礼・経営に関する分野横断的研究』（『京都府立大学文化遺産叢書』第 13 集）として平成 28 年度に刊行した。

4. 研究成果

本研究の全体としての成果は、上述した日韓国際シンポジウムにあり、その内容、記録については、『古代寺院の儀礼・経営に関する分野横断的研究』（『京都府立大学文化遺産叢書』第 13 集）として平成 28 年度に刊行した。ここでは、菱田は古代寺院の儀礼に注目し、伽藍の中でも金堂の諸仏に対する儀礼空間として中門、前庭、そして礼堂を評価し、とくに礼堂の成立が儀礼の活発化する天平

期の仏教をよく反映していることを主張した。また、吉川は、食堂が寺院の機能の中で重要な位置を占めており、その変遷を見ることから古代寺院の変化をうかがうことができるとした。韓国の寺院についても機能がうかがえる場合が多くあり、田中俊明が新羅寺院についての考古、文献の双方からの照合をおこない、崔兌先は鎮壇具の機能について、李炳鎬は百濟寺院の尼寺としての機能について、そして崔鉉植は高麗寺院の宿泊機能について言及した。これらの事例から、日韓の寺院について、伝播や影響という側面とは別に、機能の面から比較が可能であることを確認した。

このほか、研究代表者や研究分担者の成果は、それぞれの論文に著されている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 14 件)

菱田哲郎、「宮津市府中地区の板碑調査から」、『京都府立大学文化遺産叢書』、査読無、12 集、2017 年、1-22 頁。

吉川真司、「法会と歌木簡」、『万葉集研究』、査読無、36 号、2016 年、199-209 頁。

市大樹、「黎明期の日本古代木簡」、『国立歴史民俗博物館研究報告』、査読有、194 号、2015 年、65-100 頁。

菱田哲郎、「白村江以後日本の仏教寺院に見られる百濟遺民の影響」、『美術史學』(韓国誌)、査読有、2 号、2014 年、32-75 頁。

菱田哲郎、「7 世紀における地域社会の変動 - 古墳研究と集落研究の接続をめざして - 」、『国立歴史民俗博物館研究報告』、査読有、178 号、2013 年、115-134 頁。

吉川真司、「小治田寺・大后寺の基礎的考察」、『国立歴史民俗博物館研究報告』、査読有、178 号、2013 年、315-338 頁。

菱田哲郎、「古代久世郡の官衙・寺院と交通路」、『京都府立大学文化遺産叢書』、査読無、6 集、2013 年、125-134 頁。

菱田哲郎、「奈良・平安時代の陵墓」、『季刊考古学』、査読無、124 号、2013 年、51-55 頁

根立研介、「東大寺鎌倉再興造仏再考」、『京都美学美術史学』、査読無、12 号、2013 年、1-26 頁。

高正龍、「小川敬吉氏収集資料の梵字瓦」、『東アジア瓦研究』、査読無、3 号、2013 年、101-115 頁。

堀裕、「多賀城廃寺小考 - 尊像と塔から - 」、『東北アジア研究センター報告』、査読無、10 巻、2013 年、6-22 頁。

上杉和央、「地域と宗教遺産学 - 地理学の立場から - 」、『京都府立大学文化遺産叢書』、査読無、7 集、2013 年、9-22 頁

井上直樹、「570 年代の高句麗の対倭外交と高句麗・北齊関係 - 新出『裴遺業墓誌』の検

討を中心に-」、『高句麗渤海研究』、査読無、45号、2012年、日本語111~143頁、韓国語145~176頁

高正龍、「韓国江華島禅源寺跡の梵字瓦」、『東アジア瓦研究』、査読無、2号、2012年、66-82頁。

〔学会発表〕(計17件)

菱田哲郎、考古学からみた日本古代の仏教伽藍、国際シンポジウム「日韓仏教寺院の伽藍と機能」、2015年11月15日、京都府立大学(京都府京都市)

吉川真司、文献から見た奈良平安時代の伽藍、国際シンポジウム「日韓仏教寺院の伽藍と機能」、2015年11月15日、京都府立大学(京都府京都市)

田中俊明、新羅王京寺院の伽藍と機能、国際シンポジウム「日韓仏教寺院の伽藍と機能」、2015年11月15日、京都府立大学(京都府京都市)

菱田哲郎、遺物から見た日本古代の仏教伽藍、第6回仏教学研究院学術セミナー、2014年12月12日、韓国金浦市

菱田哲郎、日本古代における宗教空間の形成、宗教遺産シンポジウム、2014年10月10日~11日、ハーバード大学ライシャワー記念館、アメリカ合衆国ケンブリッジ市

堀裕、9世紀仏教と政策論、2014年度宗教史懇話会サマーセミナー、2014年8月20日、白浜荘(滋賀県高島市)

清水昭博、新羅と南朝瓦の比較研究、国立慶州文化財研究所2014年学術セミナー、2014年7月25日、韓国慶州市

堀裕、多賀城廃寺の尊像配置と塔、科研「古代寺院の儀礼と経営に関する分野横断的比較研究」公開研究会、2014年3月29日、京都府立大学(京都府京都市)

清水昭博、百濟寺院の立地 - 扶余を中心として -、科研「古代寺院の儀礼と経営に関する分野横断的比較研究」公開研究会、2014年3月29日、京都府立大学(京都府京都市)

清水昭博、日本における仏教考古学の研究現状と課題、第5回仏教学研究院学術セミナー、2013年12月13日、韓国金浦市

菱田哲郎、白村江以後の日本の渡来系寺院にみられる百濟の影響、国立扶余文化財研究所主催学術セミナー、2013年6月1日、韓国ソウル市

菱田哲郎、淀川周辺の遺跡からみた古代交通路、枚方市教育委員会主催歴史シンポジウム、2013年2月17日、メセナ枚方会館(大阪府枚方市)

吉川真司、交野ヶ原と行基の活動、枚方市教育委員会主催歴史シンポジウム、2013年2月17日、メセナ枚方会館(大阪府枚方市)

上杉和央、交野ヶ原の古代交通路、枚方市教育委員会主催歴史シンポジウム、2013年2月17日、メセナ枚方会館(大阪府枚方市)

菱田哲郎、古代寺院と地域社会 - 交通機能を中心に -、京都府埋蔵文化財研究集会、

2013年1月19日、京都市職員会館かもがわ(京都府京都市)

菱田哲郎、考古学からみた古代寺院の機能、枚方市教育委員会主催歴史シンポジウム、2012年2月18日、メセナ枚方会館(大阪府枚方市)

吉川真司、古代寺院と僧尼の生活、枚方市教育委員会主催歴史シンポジウム、2012年2月18日、メセナ枚方会館(大阪府枚方市)

〔図書〕(計9件)

菱田哲郎・吉川真司・田中俊明・崔兌先・李炳鎬・崔鈞植・金玄耿、京都府立大学文学部歴史学科、『古代寺院の儀礼・経営に関する分野横断的研究』、2017年、総288頁。

菱田哲郎、法蔵館、『「天の橋立学」への招待』2017年、222-233頁、268-274頁。

菱田哲郎・吉川真司、法蔵館、『東大寺の新研究』、2016年、65-86頁・231-262頁。

堀裕、岩波書店、『岩波講座 日本歴史』、第4巻、2014年、249-282頁。

吉川真司、岩波書店、『岩波講座 日本歴史』、第3巻、2014年、213-250頁。

菱田哲郎、吉川弘文館、『国分寺の創建 組織・技術編』、2013年、264-278頁。

菱田哲郎・田中俊明、岩波書店、『岩波講座 日本歴史』第1巻、2013年、203-234頁・271-305頁。

清水昭博、帝塚山大学出版会、『古代朝鮮の造瓦と仏教』、2013年、総294頁。

清水昭博、清文堂、『古代日韓造瓦技術の交流史』、2012年、総368頁。

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織
(1) 研究代表者

菱田 哲郎 (HISHIDA, Tetsuo)
京都府立大学・文学部・教授
研究者番号：20183577

(2)研究分担者

吉川 真司 (YOSHIKAWA, Shinji)
京都大学・文学研究科・教授
研究者番号：00212308

市 大樹 (ICHI, Hiroki)
大阪大学・文学研究科・准教授
研究者番号：00343004

根立 研介 (NEDACHI, Kensuke)
京都大学・文学研究科・教授
研究者番号：10303794

清水 昭博 (SHIMIZU, Akihiro)
帝塚山大学・文学部・教授
研究者番号：20250384

高 正龍 (KO, Jungyong)
立命館大学・文学部・教授
研究者番号：40330005

田中 俊明 (TANAKA, Toshiaki)
滋賀県立大学・人間文化学部・教授
研究者番号：50183067

堀 裕 (HORI, Yutaka)
東北大学・文学研究科・准教授
研究者番号：50310769

上杉 和央 (UESUGI, Kazuhiro)
京都府立大学・文学部・准教授
研究者番号：70379030

井上 直樹 (INOUE, Naoki)
京都府立大学・文学部・准教授
研究者番号：80381929

(3)連携研究者

()

研究者番号：

(4)研究協力者

向井 佑介 (MUKAI, Yusuke)

大脇 潔 (OWAKI, Kiyoshi)

網 伸也 (AMI, Nobuya)

小澤 毅 (OZAWA, Tsuyoshi)

近藤 康司 (KONDOU, Yasushi)

西田 敏秀 (NISHIDA, Toshihide)

古閑 正浩 (KOGA, Masahiro)

大竹 弘之 (OTAKE, Hiroyuki)